

けんこう静岡

第165号

令和8年
(2026年)
4月1日(水)

季刊発行(1月、4月、7月、10月)

発行所
公益財団法人 静岡県予防医学協会
https://www.shsa.net/

(静岡事務所) 〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田186-5 (054) 270-5177
(藤枝健診センター) 〒426-0053 藤枝市善左衛門2-11-5 (054) 636-6461
(総合健診センター) 〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8 (054) 636-6460
(沼津事務所) 〒410-0011 沼津市岡宮1210-1 (055) 921-1934
(浜松健診センター) 〒435-0006 浜松市中央区下石町951 (053) 422-7800
編集 けんこう静岡編集委員会 印刷 池田屋印刷機

子どもの発達障害 理解と支援の第二歩

― 保護者のために、具体的な姿から考える ―



名古屋国立大学 人文社会学部心理教育学科 准教授 桑島隆二

近年、「発達障害」という言葉は、学校や保育園だけでなく、テレビや新聞、インターネットを通して、私たちの生活の中に広く浸透してきました。授業中にじっと座ってられない、友だちとの関係がうまくいかない、何度説明しても同じところでつまづく――そうした子どもの姿を前に、多くの保護者が戸惑いや不安を抱えています。「どうしてこの子はできないのだろうか」「もっと努力させるべきなのではないか」「自分の育て方が悪かったのではないか」こうした思いは、子どもを大切に思うからこそ自然に浮かぶものです。しかし、発達障害は怠けや甘え、しつめの失敗によるものではありません。生まれつきの脳の働き方の違いによって、情報の受け取り方や行動の調整の仕方に偏りが生じる状態を指します。正しい理解と適切な支援があれば、子どもは安心して生活し、自分の力を少しずつ発揮していくことができます。

ADHDの子どもは、集中を続けることや順序立てて行動することが苦手で、思いついたことをすぐ行動に移してしまう傾向があります。忘れ物が多い、話を最後まで聞けないといった姿から、「落ち着きがない」「やる気がない」と誤解されることも少なくありません。LDの子どもは、知的な発達に大きな遅れはないものの、読み書きや計算など特定の学習分野で強い困難を抱えます。これらに共通しているのは、「能力が低い」のではなく、「情報の処理の仕方が周囲と異なる」という点です。周囲と同じ方法ではうまくいかなくても、やり方を変えらることで力を発揮できる子どもは少なくありません。

た、友だちとのトラブルが多い子どももいます。悪気なく思ったことを口にしてしまい、周囲から誤解されることがありますが、「空気を読む」という抽象的な指示は理解しにくい場合があります。そのようなときは、「この場面ではこう言うといいよ」と具体的な言葉を示すことで、関係が安定していくことがあります。支援とは、子どもを無理に変えるのではなく、環境や伝え方を少し調整することで、「できる場面」を増やしていく営みなのです。

信頼関係が支援の土台になる
発達障害のある子どもたちは、注意されたり叱られたりする経験を重ねやすく、「どうせ自分ではできない」「また怒られる」という気持ちを抱きがちです。そのため、支援の第一歩は、安心して関われる信頼関係を築くことにあります。結果だけを見るのではなく、「途中で投げ出さなかったね」「前より落ち着いて待てたね」といった過程を言葉にして伝えることが、子どもの自己肯定感を育てます。信頼関係が築かれることで、子どもは大人の言葉を受け取りやすくなり、支援は初めて現実的な力を持ち始めます。

「困った子」ではなく「困っている状況」を見る
発達障害を理解するうえで大切なのは、「この子が困った存在なのではなく、この状況がこの子に合っていないのではないか」と考える視点です。たとえば、朝の支度に時間がかかり、何度声をかけても動けない子どもがいます。一見すると怠けているように見えるかもしれませんが、実際には「何から始めればいいのか分からない」「頭の中が混乱している」状態であることも多いのです。準備の手順を紙に書いて貼る、終わったら印をつけるといった工夫によって、驚くほどスムーズに動けるようになることがあります。また、

「配慮」は努力を妨げるものではない
発達障害のある子どもへの配慮について、「甘やかしになるのではないか」と心配する保護者は少なくありません。しかし、配慮と甘やかしはまったく異なります。配慮とは、子どもが力を発揮しやすい条件を整えることです。不安や緊張が強い状態では、人は新しいことを学んだり、自分をコントロールしたりする余裕を持っていません。安心してできる環境があって初めて、子どもは「やってみよう」「次はこうしよう」と前向きに挑戦することができます。たとえば、宿題の量が多すぎて手が止まってしまう子どもに対して、「全部やりなさい」と言い続けても、状況は改善しません。課題を小分けにし、「今日はここまで」と区切ることで、取り組めるようになることがあります。これは努力を減らしているのではなく、努力が可能になる形に整えているのです。

「違い」を前提にした子育てへ
発達障害は、特別な一部の子どもだけの問題ではなく、人が本来持っている多様性の一側面です。「普通」に合わせるよりも、「その子らしさ」を理解し、その子に合った道を一緒に探していくことが、結果として自立と社会参加につながっていきます。理解しよるとする姿勢は、子どもにとって何よりの支えになります。小さな配慮と温かなまなざしの積み重ねが、子どもと家族の安心を支え、未来へとつながっていくのです。

発達障害には、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)などがあります。ASDの子どもは、人との距離感をつかむことや、暗黙のルールを理解することが難しい場合があります。また、音や光、におい、触覚などに強く反応し、周囲が気にならない刺激によって強い疲れを感じることもあります。

「発達障害は「能力の問題」ではなく「特性の問題」
発達障害には、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)などがあります。ASDの子どもは、人との距離感をつかむことや、暗黙のルールを理解することが難しい場合があります。また、音や光、におい、触覚などに強く反応し、周囲が気にならない刺激によって強い疲れを感じることもあります。

「発達障害は「能力の問題」ではなく「特性の問題」
発達障害には、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)などがあります。ASDの子どもは、人との距離感をつかむことや、暗黙のルールを理解することが難しい場合があります。また、音や光、におい、触覚などに強く反応し、周囲が気にならない刺激によって強い疲れを感じることもあります。

「発達障害は「能力の問題」ではなく「特性の問題」
発達障害には、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)などがあります。ASDの子どもは、人との距離感をつかむことや、暗黙のルールを理解することが難しい場合があります。また、音や光、におい、触覚などに強く反応し、周囲が気にならない刺激によって強い疲れを感じることもあります。

年一回は健康チェックを！
健康はあなたの財産です
すこやかな明日のために

人間ドック
脳ドック ものわすれドック

総合健診センター ヘルスポート
〒426-8638 藤枝市善左衛門2-19-8
TEL 054-636-6460
FAX 054-636-6465
☎ 0120-39-6460